

研究所だより

第296号
2010年6月25日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

【ほめちから】—松本徳重 著

5, 子どもを通して、親の信頼得ることに繋がります。

「今日、先生にほめられたよ！」「学級便りに僕のこと載ってるよ！」
「ほめる」のはあなた自身の関係する子ども達ですが、子どもを「ほめる」ことは、家庭に必ず伝わっていきます。
子どもが変われば親も変わります。子どもが自信をみなぎらせるように変容すれば、親も協力的になっていきます。
子どもが変わっていくのは、教師の子どもを肯定的に見つめる目、公平に見つめる目、やる気をかもし出すような目・・・など、授業と生活の活気にあります。活気あふれる学級になると否定的に教師を見る親が減少し、好意的に見てくれます。
「ほめる」ことを通して、親との信頼関係が増していくことにもなるのです。

6, より効果的に学級運営ができるようになります。

「ほめる」ことは、子どもの学習・生活を問わずあらゆる場面の中から「ほめる」素材・材料を探すことが求められます。そのためには、広い視野で、肯定的に子どもの姿を見つめることが大切となります。必然的に子どもに対する観察眼がついてくることでしょう。
また、観察によって見つけた材料に「ほめる」に値する価値を付加することが必要になってきます。物事を様々に解釈し、多角的に見る習慣もついてくることでしょう。
はじめは、ほめる語彙が少なくても「ほめる」材料を探し、実際に「ほめる」ことを通して、段々語彙が豊かになっていきます。
そして、教師の明確な教育観、価値観、人生観に基づいて「ほめる」ことは、子どもに「良いことと悪いことの基準」を自然に伝えることとなります。
これらの変化は、一回や二回「ほめる」と急に効果が出てくるものではありません。「ほめる」ことを続けることでエネルギーが蓄積され、あるときを境に、学級での子どもの姿が変わり出すのです。

<授業参観>

早いもので1学期も締めめの段階に入りました。学期最後の参観日ももうすぐのことでしょう。

授業には大きく分けて3つの授業の仕方があります。

- ①. 授業参観用の授業
考えるよりも、子どもの発言を重視する。活発そうな授業。
- ②. 研究授業用の授業
授業の目的・目標に向かって考え合う授業で、発言よりもじっくり考え、発言を促す授業。
- ③. 普段の授業
「人間形成+学力形成」を進める、生活指導も含めて指導する。発言の仕方、ノートの取り方、間違いを大事にする総合した授業。

授業参観の時は、子どもが発言しやすい活発な印象を与えることができる「授業参観用の授業」をすると良いでしょう。

親は、教師の力量を値踏みに来るわけではなく、我が子の活躍の様子を見に来るのです。難しい発問ではなく、やさしくてすぐに誰でも答えられるような簡単な質問の連続。テンポよく授業が進む。挙手も勢いがある。

見ているだけでも気持ちのいいぐらいに活発な授業になります。

子どもと親の顔が大体分かるようになったときには、参観に来た親の子どもに次々と指名していくのです。せっかく貴重な時間を割いて参観に来てもらったのですから、我が子の活躍を見せてあげようにするのです。

本を読ませたり、ノートを読ませたり、作文を読む、質問に答えさせる等々、色々想定しながら難しい発問ではなく、質問の連続で、堂々と発表できるようなものをその子に合わせて指名します。時には、親にも授業に参加してもらう方法もあります。親の私語も少なくなり、親の印象にも残る良い授業参観ができることでしょう。



<高知新聞・話題より>—塚地 和久 記者

[対象外]

高知県は高校の授業料無償化で、国が対象としている留年生もカバーする方針だ。本年度は39人。実現すればうれしい限りだ。

39人は、よく留年という道を選んだと思う。多くは留年せずに、中退を決断するからだ。2008年度の県内公立校中退者は403人。理由のトップ3は「もともと高校に熱意がない」73人、「別高校への入学を希望」66人、「学業不振」49人。

中学校の復習授業を行っている高校がある。家庭訪問を繰り返し、中退しそうな生徒と保護者を「もう一度、頑張ろう」と励まし続ける教員もいる。が一。

高校の現場から、こんな声が聞こえる。「高校は『しんどい生徒』のフォローに熱心ではなくなってきたくないか。そういう生徒は、ほっておけば中退し、目の前からいなくなることを教員は知っている」「そうして中退した生徒は、学校から切り捨てられたという思いが強い」

「熱意がない」「別高校へ」という中退の多さに、中学校の進路指導を懸念する声もある。「『どこでもいい。入れる高校へ』という無理な指導がありはしないか」

留年生の無償化と併せ、高校側は「人より時間がかかる生徒もいる。そういう生徒も受け入れ、ともに頑張ろう」という教育を進めてほしい。

行政は、中学卒業後の進路未定者や高校中退者への支援も忘れないでほしい。高知市の朝倉夜間中学校や同市教育研究所の「あったかスペース」のような、義務教育終了者を支える機関がもっとあれば、無理な進路指導も減る。広義の“無償化の対象外”も忘れてはいけない。

<手作り絵本教室開催>—7月28日(水) 29日(木)

夏休みを利用して普段の授業では取り組むことが難しい世界でたったひとつの「自分の絵本」作りの体験学習を子ども達に進めてみてはいかがでしょうか。絵本作りを通して創造性を豊かに育めればと思っています。先生方にも是非参加していただき、お手伝い願えれば幸いです。

詳細は各学校にチラシを配布いたします。宜しく願いいたします。